

3 青垣地域

(1) 地域の概況

青垣地域は、市の北西部に位置し、西には粟鹿山、南には岩屋山があり、その合間を佐治川や遠阪川が流れ、川沿いに開けたまちです。

国道 427 号、429 号や県道青垣柏原線が通っており、北近畿豊岡自動車道の青垣インターチェンジがあります。

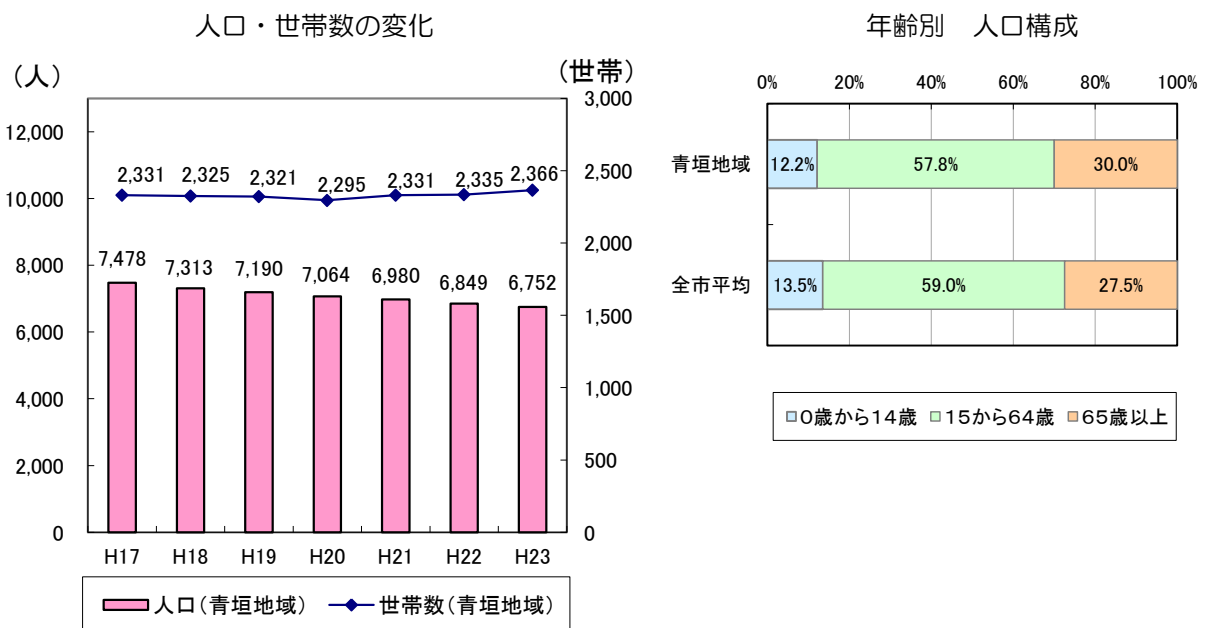
宿場町の面影を偲ばせる町並みと、多くの歴史・観光資源が存在し、四季折々の豊かな表情を見せてくれます。

地域内には、佐治地区・芦田地区・神楽地区・遠阪地区の4つの地区が存在し、青垣地域を形成しています。



【人口・世帯数の推移】

◆人口は 6,752 人、世帯数は 2,366 世帯となっています。(平成 23 年 3 月末時点)



◆平成 17 年以降、人口は減少傾向となっていますが、世帯数は横ばいです。

◆人口構成は、「0 から 14 歳が 12.2%」、「15 から 64 歳が 57.8%」、「65 歳以上が 30.0%」で、全市の平均と比較すると、やや高齢の世代の割合が大きい傾向にあります。

◆少子高齢化が、本市の中で最も顕著な地域であり、地域全体の高齢化率が 30.0%と市で最も高い割合となっています。

■地区の特徴（H23.3 末現在）

【佐治地区の特徴】

- ◆地区内、22 自治会で形成。
- ◆青垣支所、青垣診療所、住民センター、JA（丹波ひかみ農協）、店舗などの公共公益施設が集中するほか、工業団地も立地。
- ◆資源として、青垣翁三番叟（国指定選択芸能）、丹波布（国指定重要民俗文化財）、佐地神社、街道筋の街並み、関西大学佐治スタジオ、来楽館、岩屋山（パラグライダー）など。

【芦田地区の特徴】

- ◆地区内、5自治会で形成。
- ◆農業が盛んであるほか、果樹（ブドウ・モモ・栗など）やバラ温室栽培もある多様な営農体系が特徴。
- ◆資源として、瑞雲寺、高座神社、蘆田家（景観形成重要建造物）、岩屋山（パラグライダー）、丹波少年自然の家、道の駅あおがき、丹波布伝承館、江古花園など。

【神楽地区の特徴】

- ◆地区内、7自治会で形成。
- ◆加古川源流を活かした農業が主流であり、また砂質を活かした花卉栽培の農家も多い。
- ◆資源として、粟鹿山頂（眺望）、高源寺（天目カエデ紅葉）、再興寺（三如来像）、浄丸の滝、愛菜館おなぞ、常瀧寺（大イチョウ：県天然記念物）、神楽の郷交流センター、アマゴの養殖など。

【遠阪地区の特徴】

- ◆地区内、13 自治会で形成。
- ◆兼業農業が中心であり、様々な団体が、地域づくり活動に積極的。
- ◆資源として、粟鹿山麓（ミズナラ自然林などの植生）、遠阪川・今出川（溪流美）、武大神社、平岩家（景観形成重要建造物）、今出せせらぎ園（親水公園）、青垣いきものふれあいの里遠阪峠（手塚治虫：ブラックジャックに描かれた）など。

（２）地域の特徴

①豊かな自然環境に恵まれている

- ◆周囲を青い山が垣のように取り囲む様子から「青垣」の地名が付けられたとの説がある通り、地域の大半が森林で占められ、素晴らしい自然が各所に見られます。
- ◆浄丸の滝やバイカモ、オオイチョウ、セツブンソウなどの貴重な自然資源も分布しています。

②都市農村交流に先駆けて取り組んできた地域であり、現在も継続されている

- ◆昭和 60 年代から、自然を活かした都市住民との多自然交流に先駆けて取り組んできた地域であり、現在でもその活動が息長く継続され、多様な交流が育まれています。
- ◆桃のオーナー制やブドウ園、棚田オーナー制度などの体験型交流を始め、企業やボランティアグループによる森づくりを通じた交流などが行われています。

③交流の拠点施設が数多く分布しており、住民団体の手で運営されている

- ◆交流が盛んであることから、丹波少年自然の家やパラグライダー場、丹波布伝承館、青垣いきものふれあいの里、今出せせらぎ園、バイカモ公園、江古花園、青垣総合運動公園（グリーンベル青垣）など自然を活かした誘客施設が数多く立地しています。
- ◆道の駅あおがきを始め、来楽館、ごりんかん、神楽の郷、愛菜館おなごなど、村おこしグループが拠点の運営に携わっています。

④地域づくりに積極的な団体が多く存在し、多様な連携も進んでいる

- ◆遠阪むらづくりを考える会、一般財団法人神楽自治振興会や自治会型NPO大名草、東芦田地区など、様々な団体が積極的に活動しています。
- ◆平成 19 年に設置された、関西大学の佐治スタジオや地域連携型高校である県立氷上西高校といった学校機関との連携も行われるなど、地域づくりが積極的に行われている地域です。

⑤歴史・文化資源や祭りなどの伝統文化が現在も継承されている

- ◆紅葉が美しい高源寺や宝林寺、胎蔵寺、養徳寺、常瀧寺などの名刹、今出権現熊野神社や高座神社、佐地神社、佐治の旧街道沿いの歴史的な妻入り商家の美しい町並みなど、歴史・文化資源に恵まれています。
- ◆今出権現熊野神社のはだか祭りや青垣翁三番叟、丹波布など、永く受け継がれてきた伝統文化が現在も継承されています。
- ◆宿場町飛脚リレーや丹波布祭りなど、伝統文化を現在に活かしていくための取り組みも行われています。

（３）地域の課題

【まちづくり・土地利用の課題】

①人口の減少・高齢化が最も顕著

◆青垣地域は、ここ 10 年で急激な人口減少・高齢化に見舞われており、地域コミュニティの維持、農地・山地の維持管理などの対策が必要です。

②支所周辺の生活拠点の強化と空き家の有効活用

◆支所周辺は、商業施設や認定子ども園の立地によって生活利便性が向上し、生活拠点として様々な機能が集積していますが、引き続き生活機能の強化と、地域内の住み替え需要に対応した住宅供給が必要です。

◆佐治地区では、妻入り形式の宿場町の町並みが残っていますが、商店の移転・廃業により空き家が増加しているため、美しい歴史的な町並みを活かす取り組みが必要です。

◆他地区でも、空き家が増加していますが、Uターン者の住まいなどとして有効に活用するため、積極的に呼び込む（誘致する）方策もあわせて考えていく必要があります。

【道路・交通の課題】

③生活拠点と周辺とを結ぶ交通手段の確保

◆利便性の高い生活拠点と、他地区とを結ぶ交通手段のさらなる確保や取り組みが必要です。

④隣接市との連携強化

◆国道 429 号は、青垣地域から福知山市へとつながるルートですが、榎峠付近は、交通難所の峠越えルートとなっています。

◆古くから青垣地域と福知山市は、仕事や暮らしを通じた結びつきが強く、北近畿豊岡自動車道、国道 9 号、427 号等の道路ネットワークの強化や隣接市との交流の発展、医療過疎地域での緊急輸送路の充実などの観点から、福知山市と協力し国道 429 号改修促進協議会と一体となって、トンネル化を踏まえた道路改良を進めていく必要があります。

【商工・観光の課題】

⑤体験型観光の促進

◆多様な都市農村交流を進めてきた一方、それらは主に個々の地区単位での取り組みが多かったことから、地域全体での発信力を高める取り組みが必要です。

- ◆観光バス等で、大勢の人が短時間に訪れるマス型観光（マス・ツーリズム）ではなく、豊かな資源や人材を活かし、青垣地域全体で多様な体験ができる「体験型観光」を、さらに推し進めていく必要があります。

⑥青垣工業団地への企業誘致

- ◆青垣工業団地には、居抜き物件も残っており、企業誘致を引き続き進めていく必要があります。

（４）まちづくりの将来像と目標

【将来像】

都市農村交流をさらに拡げ
暮らしを支えあうまち 青垣

青垣地域には、都市農村交流の先駆けとして、豊かな自然を活かし、各自治会・地域住民が積極的にまちづくりに取り組んできた実績があります。

その一方で、市内で最も人口減少・高齢化が進んでおり、自治会での暮らしをどう維持していくかが大きな課題となっています。

そこで、都市農村交流をさらに拡げながら、滞在、体験、さらには定住まで、様々な主体と地域との関わりを育みながら、暮らしを支えていくまちをめざします。

【目 標】

- ① 豊かな自然・地域資源を活かした都市農村交流のまちづくり
- ② 地域の暮らしを支える生活拠点づくり
- ③ 自治会で暮らし続けられるまちづくり
- ④ 安心して暮らせるまちづくり

（５）まちづくりの方針

- ① 豊かな自然・地域資源を活かした都市農村交流のまちづくり を実現するために

ア 体験を軸とした都市農村交流の拡大

◆パラグライダー練習場などのレクリエーション施設のみならず、丹波少年自然の家など自然体験のできる教育施設のほか、丹波布伝承館といった歴史・文化体験施設、道の駅あおがきをはじめとした拠点施設等を一体的にとらえ、都市住民との多自然交流の取り組みを引き続き進め、地域でまるごと体験・交流ができる「体験型観光」の場としての発信に取り組めます。

- ◆観光目的の団体客のみならず、環境保全や地域での体験・学習に関心の高い市民団体・ボランティアグループ・企業など、自然・農村環境の維持・保全に向けた担い手としての連携をより一層進めます。
- ◆芦田地区の江古花園・ごりんかん・グリーンベル青垣、神楽地区の高源寺・神楽の郷・愛菜館おなご、遠阪地区の今出せせらぎ園等の地域資源を活用した、交流やにぎわいを創出する交流ゾーンとして情報発信するなど、交流を促進します。

② 地域の暮らしを支える生活拠点づくり を実現するために

ア 地域拠点としての都市機能の維持・充実

- ◆佐治地区の佐治周辺を地域拠点として、日常の暮らしを支える買い物、診療、子育て、福祉等の生活機能の維持・充実を図ります。
- ◆旧来からの商店街や県道青垣柏原線沿道において生活利便機能の維持を図るとともに、佐治周辺の宿場町の歴史的な町並みの維持・保全や拠点施設「来楽館」を活用して、住民や関西大学等の参加による地域の活性化を図り、地域で支え合うような取り組みを推進します。
- ◆青垣工業団地においては、引き続き企業誘致を進め、地域拠点と連携した市街地ゾーンの形成を図り、機能の充実をめざします。

イ 地域内住み替えやUターンによる定住の促進

- ◆体験型観光による一時的な訪問から、一時滞在・半居住、さらにはUターンによる定住へつなげる段階的な居住の促進に努めます。
- ◆地域内での住み替えやUターンでの定住を増やすべく、利便性の高い支所周辺への住宅の誘導を進めるほか、空き家の所有者と居住希望者とのマッチング、Uターン者への優遇措置の活用など、定住の起爆剤となる取り組みを検討します。

③ 自治会で暮らし続けられるまちづくり を実現するために

ア 自治会での暮らしの維持と、支え合いのネットワークの形成

- ◆人口減少・高齢化が進む自治会において、福祉施策等を活用しながら高齢者等の暮らしを支えるとともに、暮らしの維持が困難となった自治会においては、専門家や都市住民などの力も借りながら、隣接・近接する自治会との連携・連合を促し、自治会間で支え合うネットワークづくりに努めます。

- ◆暮らしが困難になってより便利な場所を希望する高齢者等に対して、地域拠点など生活利便性が高い地区への住み替えがしやすい環境整備を図ります。
- ◆芦田地区、神楽地区及び遠阪地区における、良好な環境が形成されている田園・自然ゾーンにおいて、緑条例等を活用して周辺の豊かな自然環境や田園環境と調和した住環境の整備を進めます。

イ 地域拠点と各地区間を結ぶ交通手段の確保

- ◆生活利便機能が集積する拠点と各地区とを結ぶ地域内の交通手段として、デマンド（予約）型乗合タクシー等を積極的に活用した交通手段の確保を図ります。
- ◆広域拠点への交通手段として路線バスの積極的な活用を促します。

ウ 地域拠点と隣接市とを結ぶ道路網の充実

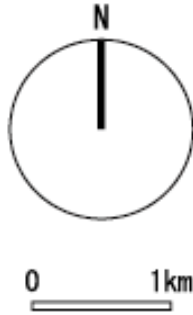
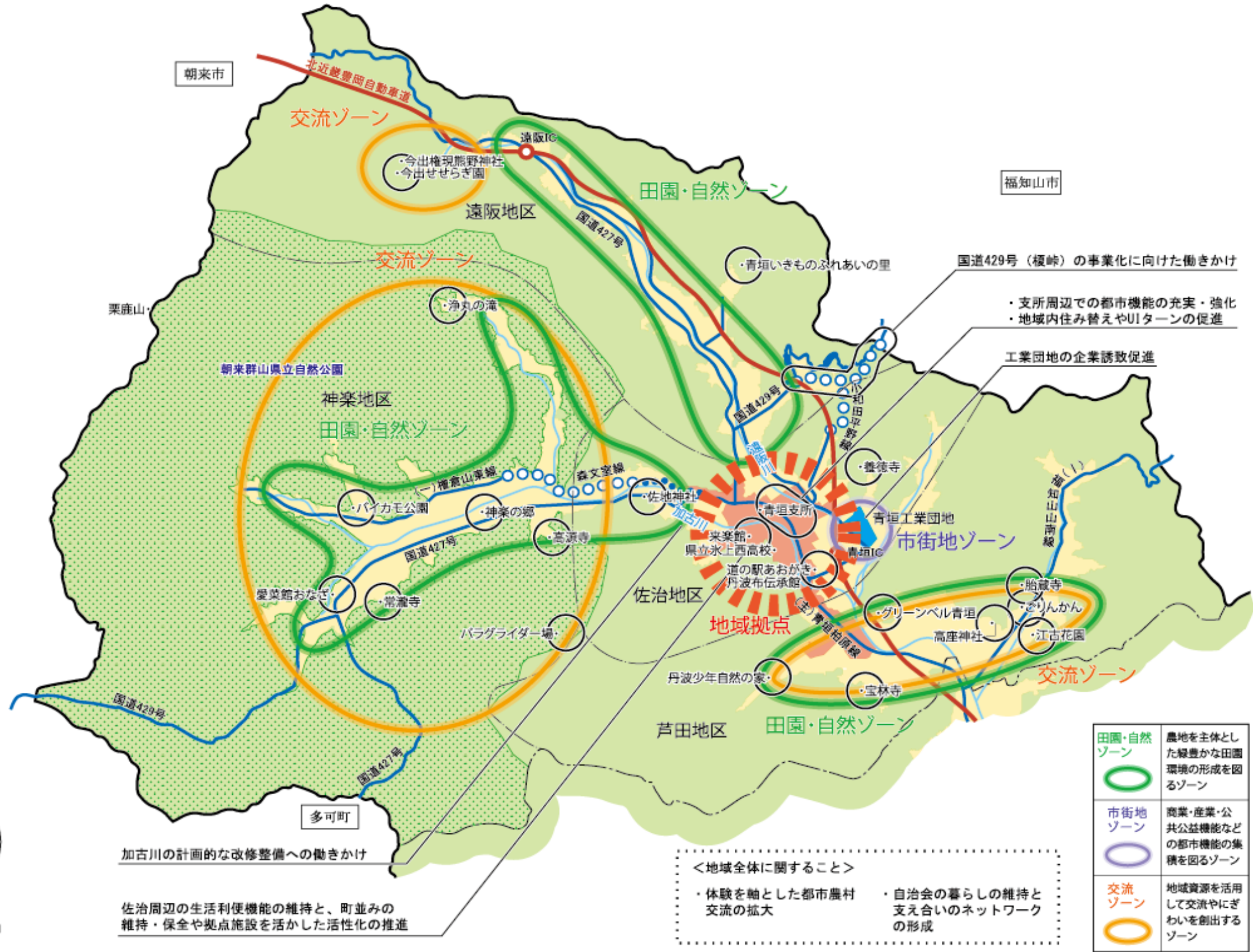
- ◆遠阪地区にある、福知山方面へとつながる国道 429 号について、安全な通行が可能となるよう早期事業化に向けて、関係機関に働きかけます。
- ◆佐治地区の佐地神社周辺までの森文室線の完了に向けた道路整備を図ります。

④ 安心して暮らせるまちづくり を実現するために

ア 森林の再生や水害対策による防災機能の向上

- ◆土砂災害や小河川の氾濫の防止に向けて、混交林化による植生転換など長期的な森林の再生や、河床の土砂の除去など防災機能の向上を図ります。
- ◆加古川の計画的な改修整備を関係機関に働きかけつつ、雨水の貯留や浸透の方針を検討し、農地やため池の保全・活用などと合わせて、流域全体の総合的な治水機能の強化に努めます。

都市農村交流をさらに広げ 暮らしを支え合うまち 青垣



加古川の計画的な改修整備への働きかけ

佐治周辺の生活利便機能の維持と、町並みの維持・保全や拠点施設を活かした活性化の推進

<地域全体に関すること>

- ・体験を軸とした都市農村交流の拡大
- ・自治会の暮らしの維持と支え合いのネットワークの形成

田園・自然ゾーン	農地を主体とした緑豊かな田園環境の形成を図るゾーン	市街地	市街地
市街地ゾーン	商業・産業・公共公益機能などの都市機能の集積を図るゾーン	工業拠点	工業拠点
交流ゾーン	地域資源を活用して交流やにぎわいを創出するゾーン	集落・田園地区	集落・田園地区
		森林地区	森林地区
		自然公園地域	自然公園地域
		整備済	整備済
		構想	構想
		整備済(計画中)	整備済(計画中)
		構想	構想
		鉄道	鉄道
		河川	河川
		校区界	校区界

※ (主) は主要地方道、(一) は一般県道を示す。